

吉水英人 四日市国際交流センター長

村上 暁 スタッフ

地下鉄に乗って

篠原哲雄 ギャガ・松竹 2006年

タイタニック

ジェームズ・キャメロン 米 1997年

これまでに観た数多くの作品のなかから原作を読んでいて舞
台化された映画作品として思い浮かんだのが浅田次郎原作・篠原
哲雄監督『地下鉄に乗って』だ。

堤真一演じる主人公の長谷部真次は女性用下着を売り歩か
ないセールスマンだが、真次の父親である小沼佐吉は、一代で
築き上げた（小沼グループ）の創立者であり、真次はその御曹司
であった。真次は父親の母や兄への傲慢な態度に反発し、高校卒
業後、家を飛び出し父親とは断絶状態だ。ある夜、永田町駅の地
下鉄の階段を上ると、そこには30年前の1964年（昭和39
年）の風景が広がっていた。そこで真次は、在りし日の兄を目撃
し、同僚の愛人関係にもある軽部みち子と共に、地下鉄を通じて
現実と過去を行き来しながら、兄の過去や父の生き方を目撃して
ゆく。主人公ふたりが昭和の激動の時代を生きた（父になる前の
父親）と（生まれる前の母親）の姿を見ることにより心が変化し
ていく。寄稿するにあたり再度DVDを観てみたが、40年前に
亡くなった父親に思いを馳せ、初めて人生の岐路に立った高校1
年生のころを思い出させてくれた。

公開当時、レオナルド・ディカプリオが来日、日本中が『タイ
タニック』大ブーム。まだ結婚する前で交際中だった彼女も、御
多分にもれず「レオ様かっこいい！映画見に行こうよ」。

僕は、（イケメン好き女子狙いのお涙ちょうだいか。それにして
も3時間なんて長いな）なんて思い、あんまり気乗りしないま
ま彼女と見に行った。

3時間、あつという間だった。映画館からの帰り道、彼女も僕
も、感動で涙が止まらない。

前半は、身分の違う二人の出会いにドキドキ。後半は、二人の
サバイバル大作戦にドキドキ。手錠につながれたジャックをロー
ズが救い出した後は、（絶対に手を離すな！）と二人を応援し続け
た。

最後まであきらめずに励ましあった二人の姿を見て、自分も隣
にいる人の手を絶対に離さないぞと、ひそかに心に誓ったもので
した。

映画を観た翌年、その彼女と結婚。結婚20周年の今年4月、
東員のイオンシネマで『タイタニック』が上映されたので、妻を
誘ってみた。「友達とランチに行くから一人でどうぞ」。